

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎げんき館
施設の設置目的、 役割	健康増進施設
施設の所在地	岡崎市若宮町2丁目1番地1
施設規模	敷地面積：13,263.56㎡ 建物面積：7,563.25㎡
指定管理者	名称：岡崎げんき館マネジメント株式会社 所在地：岡崎市若宮町二丁目1番地1 代表者：鈴木 隆博
指定期間	平成20年3月1日～令和15年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

〈イベント〉

項目	実施日	人数(人)	内容
四季イベント 夏のげんきまつり	7/27	2,500	ふれあい夏まつり(盆踊り等)
小計		2,500	
四季イベント 秋のげんきまつり	10/14	745	スタンプラリー
		209	パワーパドラー体験 水上ドライブ
小計		954	
四季イベント 冬のげんきまつり	1/12	11	すこやかキッズ体操 体験会
		20	子ども体力測定 わんぱく度チェック
	1/13	97	名古屋グランパス幼児サッカー体験(年少)
		68	名古屋グランパス幼児サッカー体験(年中)
小計		196	
四季イベント 春のげんきまつり	3/8	10	シセイカルテ AIで姿勢をチェック!
	3/9	26	春のふんわりコンサート
		8	ベビーとママのふれあい会

		13	ノルディックウォーキング体験
		20	すこやかキッズ体操 体験会
小計		77	
合計		3,727	

〈教室事業〉

項目	実施期間	申込人数	定員
第1期	4/1~6/30	2,535	2,945
第2期	7/1~9/29	2,553	2,925
第3期	9/30~12/22	2,677	2,953
第4期	1/5~3/31	2,631	2,953
合計		10,396	11,776

〈職業体験・社会見学〉

実施日	学校名	学年	人数
9/25~26	岡崎市矢作中学校	2年生	4
10/3	岡崎市立根石小学校	2年生	30
10/16~17	岡崎市立岩津中学校	2年生	3
1/30	岡崎市立竜南中学校	1年生	10
2/19	岡崎市立六ツ美中学校	1年生	6
3/13	岡崎市立東海中学校	1年生	24
合計			77

(2) 事業実施に対する自己評価

四季イベントについては概ね計画どおりに実施した。イベントとして初めて実施した姿勢チェックは即時定員に達して好評であったため、今後も定期的な開催を目指したい。

教室事業は定員に対する申込者数が88.3%であり、十分な集客であったといえる。

新型コロナウイルスによる制限がなくなったことにより、教育現場も活発になった印象である。職場体験や社会見学の申出には積極的に対応して受け入れた。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

新規登録数	4,797 人
-------	---------

施設		人数(人)
健康づくり ゾーン	一般利用	146,324
	教室利用者(スタジオ・プール)	94,090
	見学者	312
	健康広場(フットサル)	2,877
	健康広場(テニス・サッカー)	12,512
	小計	256,115
子ども育成 ゾーン	プレイルーム	3,358
	子育て相談	168
	プレイホール	16,415
	利用者向け託児	1,910
	病後期一時託児	9
	小計	21,860
市民交流 ゾーン	和室	2,640
	市民活動室	7,002
	多目的室	9,249
	調理実習室	3,743
	市民ギャラリー	4,747
	講堂	10,813
	情報ライブラリー	34,379
	小計	72,573

保健衛生 ゾーン	総務係（窓口受付・取次件数）	691
	保健政策係（窓口受付・取次件数）	574
	医務指導係（窓口受付・取次件数）	1,428
	施設整備係（窓口受付・取次件数）	661
	環境衛生係（窓口受付・取次件数）	1,668
	食品衛生係（窓口受付・取次件数）	2,939
	感染症対策係（窓口受付・取次件数）	1,009
	予防接種係（窓口受付・取次件数）	4,229
	成人保健係（窓口受付・取次件数）	2,146
	母子 1 係（窓口受付・取次件数）	318
	母子 2 係（窓口受付・取次件数）	574
	母子 3 係（窓口受付・取次件数）	336
	こころの健康推進係（窓口受付・取次件数）	553
	市役所（窓口受付・取次件数）	263
	動物総合センター（窓口受付・取次件数）	337
	食品衛生協会（窓口受付・取次件数）	651
	その他（窓口受付・取次件数）	117
小計	18,494	
合計	369,042	

（２）利用状況に対する自己評価

健康づくり支援事業では、今年度の一般利用者・教室利用者・フットサル利用者・テニス・サッカー利用者を含めた総利用者数が 256,115 人となり、昨年度（224,959 人）と比較して 31,156 人の増加であった。スタジオとプールを使用した提案教室では申込傾向やニーズの分析から適宜プログラムの組み換えを行った。

子ども育成支援事業は、概ね昨年度と同程度の利用者数であった。子ども育成ゾーンの一般利用を示すプレイホールの利用者数は昨年度と比較して 450 名程度増加している。制作カリキュラムを終日実施して親子で楽しめるようにスタッフ一同で企画考案に努めた。

市民交流支援業務の内、総合受付で発行した新規の利用者カードは 4,797 枚（前年度 4,826 枚）となり、わずかに減少したものの依然として新規の来館者が多くみられる。

情報ライブラリーの利用者数は昨年度と比較して2,300名程度増加しており、健康づくりゾーンの利用者数増加により図書室のついで利用も多くみられた印象である。

保健衛生支援事業では、各種申請の受付業務、目的に対する案内・説明、電話対応・取次ぎ、健診の受付、予防接種の接種券受付、各種申請入力業務、発送業務、カルテ・受診票のチェック等の業務を行った。年度途中からの追加業務についても積極的に受託して、指示書の内容を遵守して対応した。

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
収 入	指定管理料収入		368,869,986
	利用料金収入	(市の歳入となる)	41,172,430
	事業収入	(独立採算事業のみ実施)	0
	その他収入	(独立採算事業のみ実施)	0
収入 計			410,042,416
支 出	直接管理運営費	直接人件費、光熱水費、消耗印刷費、修繕費、清掃等委託料、保険料等	315,658,273
	(うち修繕費)		(20,439,346)
	事業費	事業に係る経費	24,046,824
	その他	本部経費、租税公課、当期剰余金等	17,545,844
支出 計			357,250,941
差 引			52,791,475

(2) 収支状況に対する自己評価

利用料金収入は昨年度(37,385,060円)と比較して111.6%であった。特に健康づくりゾーンにおける一般利用の増加による影響が大きいといえる。新規利用者に対する丁寧な案内を心がけた。健康相談の受付が高い水準で実施できており、施設の再利用にも貢献しているといえる。

支出面では人件費の増加や光熱水費の高騰などの影響を受ける。また、開館から17年が経過し、設備等の修繕費用も増加傾向にある。

4 利用者アンケート結果

(1) 実施概要

実施期間	回答者数	アンケート実施方法
2024年12月1日～12月20日	258枚	各ゾーンにてアンケート用紙を配布。

(2) アンケート結果概要

市内利用者が90.3%になる。交通手段は78.5%が自家用車であり、徒歩・自転車・バイクが20.4%となる。公共交通機関を利用しての来館はごくわずかである。

スタッフの接客や対応については「非常によい」・「よい」との回答が82.6%であった。施設の清潔さについて「非常によい」・「よい」という回答が80.2%、同様に施設の雰囲気については78.7%であった。

今後の利用について「また利用したい」が87.2%を占めた。

自由記入欄には四季イベントとして実施したげんきまつりについて喜ばれる声が聞かれた。また、子ども育成ゾーンで継続して実施している消毒作業について、安心感を得られるといった意見もあった。料理教室等の体験型イベントについても好評であった。

一方でトレーニングジムの設備等に対する老朽化を指摘される声も聞かれ、設備の維持管理や更新に関する課題が見受けられる。

(3) アンケート結果に対する自己評価

アンケート結果は比較的良好といえる。「スタッフの接客や対応」「清潔さ」については8割程度が「非常によい・よい」であり、サービス水準は安定しているといえる。一層の高評価を得られるよう尽力したい。

設備や備品の更新及び修繕については優先順位を整理して対応していく。

5 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

利用者満足度向上委員会を設置して毎月開催している。投書及び受付窓口で把握したご意見等についてSPC構成企業各社で共有している。事例を共有することで、施設内のセクションごとに置き換えてそれぞれに適した対応等を検討することができている。

施設全体の利用者数も増加傾向にあり、十分なサービスが提供できているといえる。安全管理を大事として、接客接遇については一層の向上を目指したい。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

利用者アンケートと教室アンケートを行ってニーズの把握に努めている。利用者の目線であるからこそその指摘を大切にして、備品の追加や更新に役立てることができた。また、教室に関する要望については特に吟味して検討し、ニーズに応じたプログラム改定を行い、

結果として教室受講者も増加している。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

意見箱、ホームページ、市からの連絡等でいただいたご意見に対して、それぞれ真摯に回答することを心がけた。

利用者目線でいただく運営のアイデアには貴重な内容が多くあり、すぐに対応できるものは即刻取り入れるなどして、市民と共により良い施設環境の構築を目指して取り組んだ。